



TITLE:

降旗武彦 教授・略歴・著作目録 (降旗武彦教授記念號)

AUTHOR(S):

CITATION:

降旗武彦 教授・略歴・著作目録 (降旗武彦教授記念號). 經濟論叢 1986, 137(1): 177-182

ISSUE DATE:

1986-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/134116>

RIGHT:

經濟論叢

第137卷 第1号

降旗武彦教授記念號

献 辞	山 田 浩 之	
情報ネットワークと企業間関係	浅 沼 萬 里	1
役員兼任と企業間関係の測定	佐 藤 義 信	22
一般システム理論と組織論	岸 田 民 樹	42
大手小売業の競争戦略	西 口 義 展	61
企業間組織についての一考察	麻 生 幸	83
途上国企業経営：飛躍へのステップ	中 川 多喜雄	104
会社支配の発展類型	三 戸 浩	120
日仏多国籍企業の人事管理	尼 子 哲 男	138
スウェーデンにおける職務研究と 作業組織の再編成	赤 岡 功	159

降旗武彦 教授 略歴・著作日録

昭和61年1月

京 都 大 学 經 濟 學 會

降旗武彦 教授 略歴

- 大正11年(1922) 6月9日 長野市に生まる
- 昭和10年(1935) 4月 長野県立長野中学校入学
- 昭和15年(1940) 3月 同校卒業
- 昭和15年(1940) 4月 弘前高等学校文科甲類入学
- 昭和17年(1942) 9月 戦時特別措置により、同校繰り上げ卒業
- 昭和17年(1942) 10月 京都帝国大学経済学部入学
- 昭和18年(1943) 12月 学徒動員により舞鶴海兵団入団
- 昭和19年(1944) 2月 第4期海軍予備学生を命ぜられ、武山、館山、横須賀で訓練を受ける
- 昭和19年(1944) 12月 海軍少尉に任ぜられ、巡洋艦「矢矧」乗組
- 昭和20年(1945) 4月 戦艦「大和」以下10隻からなる片道燃料の特攻艦隊として沖縄に向けて出撃、徳之島西方海上において、アメリカ艦載機群と遭遇、激戦となる。戦闘中、爆弾破片により、頭蓋骨陥没骨折の重傷で一時意識を失う。「矢矧」沈没時、意識回復、洋上に漂うこと数時間、戦闘終了とともに、沈没をまぬがれた駆逐艦「冬月」により救助、佐世保海軍病院に収容、病院生活のうちに終戦を迎える。
- 昭和20年(1945) 9月 復員、復学の手続きをすませたが、傷、容易に癒えず、通院しながらの学生生活が続く。
- 昭和22年(1947) 9月 京都帝国大学経済学部において、学士試験合格、同大学卒業
- 昭和22年(1947) 10月 京都大学経済学部大学院入学
- 昭和23年(1948) 4月 第一期特別研究生
- 昭和25年(1950) 3月 同終了
- 昭和25年(1950) 4月 第二期特別研究生
- 昭和26年(1951) 5月 教員適格と判定
- 昭和26年(1951) 6月 同大学院退学
- 昭和26年(1951) 7月 京都大学講師 経済学部勤務
- 昭和27年(1952) 4月 奈良女子大学 非常勤講師(昭和30年3月まで)
- 昭和29年(1954) 4月 関西大学商学部非常勤講師(昭和34年3月まで)
- 昭和32年(1957) 11月 京都大学助教授 経済学部勤務

- 昭和33年(1958) 6月 天理大学非常勤講師(昭和34年3月まで)
- 昭和34年(1959) 1~2月 *高知大学 非常勤講師(集中講義)
- 昭和35年(1960) 7月 アメリカ合衆国へ出張、ミンガン大学経営学部にて研究に従事(昭和37年7月まで)
- 昭和38年(1963) 10月 京都府立大学文家政学部 非常勤講師(昭和45年9月まで)
- 昭和41年(1966) 9月 学術奨励審議会専門委員(昭和43年8月まで)
- 昭和43年(1968) 2月 学術審議会専門委員(昭和49年7月まで)
- 昭和43年(1968) 4月 京都工芸繊維大学 非常勤講師
- 昭和45年(1970) 6月 京都大学教授 経済学部勤務
- 昭和45年(1970) 10月 学術振興会経営問題第108委員となり現任に至る
- 昭和45年(1970) 10月 学生部委員(昭和46年9月まで)
- 昭和45年(1970) 11月 著書「経営管理過程論の新展開」(日本生産性本部 昭和45年)に対して、第13回日経経済図書文化賞受賞
- 昭和46年(1971) 4月 名古屋大学経済学部大学院 非常勤講師
- 昭和46年(1971) 6月 京都市建築審査会委員となり、現任に至る
- 昭和46年(1971) 11月 著書「経営管理過程論の新展開」に対して、京都大学経済学博士 授与
- 昭和47年(1972) 1月 京都大学経済学部長 京都大学評議員 図書館商議会商議員
- 学部長発令前夜1月9日午後7時のニュースで、経済学部助手の指名手配を知る。翌10日、学部長発令とともに、この前例のない問題の取り扱いに没頭、一連の国交等に対処するうちに、狭心症の発作が連続したため4月はじめ入院、昭和47年(1972) 5月、学部長および併任委員の辞任のやむなきにいたる。
- 昭和47年(1972) 7月 退院 職場復帰
- 昭和51年(1976) 7月 京都大学評議員 大学院審議会審議員
- 昭和52年(1977) 4月 同志社女子大学 非常勤講師 現任に至る
- 昭和52年(1977) 11月 評議員および併任委員辞任
- 昭和55年(1980) 4月 信州大学教授 経済学部勤務に配置換え(経済学部が人文学部より独立するのに際し、京都大学経済学部の諒解を得て)、京都大学経済学部併任
- 昭和57年(1982) 4月 京都大学教授 経済学部勤務にもどる
- 昭和58年(1983) 5月 大学設置審議会専門委員となり、現任に至る
- 昭和59年(1984) 1~3月 名古屋大学経済学部大学院 非常勤講師

昭和60年(1985) 6月 京都大学70周年記念の基金により、1ヶ月間、イギリス、フランス、西ドイツの経営学研究・教育の現状視察のため出張。

なお、この間、学部長となり健康を害するまで、永きにわたり、日本経営学会、組織学会等の各種学会の理事、評議員、幹事等の委員を務めた。

降旗武彦 教授 著作目録

著 書

株式会社経営論 (絶版)	森 山 書 店	昭和35年 8 月 (1960)
経営管理過程論の新展開	日本生産性本部 (日経図書文化賞受賞)	昭和45年 5 月 (1970)
経営学原理	実 教 出 版	昭和61年 2 月 (1986)

編 著 書

企業組織と環境適合 (赤岡功と共編者)	同 文 館	昭和53年 9 月 (1978)
経営学の課題と動向 (飯野春樹, 浅沼萬里, 赤岡功と共編著)	中 央 経 済 社	昭和54年11月 (1979)
経営学小辞典 (岡本康雄, 河合忠彦と共編)	有 斐 閣	昭和58年 7 月 (1983)

翻 訳

経営問題の国際的動向 (平井泰太郎編, 第10回 国際経営会議ならびに第8回国際経営社会問 題会議記録および報告の共同翻訳)	森 山 書 店	昭和30年11月 (1955)
C. I. バーナード著 経営者の役割 (旧訳, 田杉競監訳)	ダイヤモンド社	昭和31年 9 月 (1956)

論 文

経営経済学における経済性概念について	経 済 論 叢 第65巻第4・5号	昭和25年 5 月 (1950)
企業における制度的認識	平井泰太郎編「経営の内部関係 と外郭関係」国元書房	昭和26年 9 月 (1951)
取締役会と企業経営—アメリカにお ける取締役会について—	日本経営学会編 経営学論集22 集「株式会社と企業経営の諸問 題」同文館	昭和26年 9 月 (1951)
人間関係論をめぐる一考察 —労使関係との関連における—	経 済 論 叢 第72巻第1号	昭和28年 5 月 (1953)
企業における官僚主義	P. R. 第4巻第11号	昭和28年11月 (1953)
企業者の変質と企業者活動	日本経営学会編 経営論叢集25 集「労使関係の基本問題」	昭和29年 6 月 (1954)
企業者と経営者	P. R. 第5巻第8号	昭和29年 8 月 (1954)

- 技術的革新と独占企業
—アメリカにおけるテレビジョンの
innovation を中心として— P. R. 第6巻第9号 昭和30年9月
(1955)
- 独占体制と技術的革新
—アメリカにおける蛍光灯の
innovation を中心として— 経 済 論 叢 第76巻第5号 昭和30年11月
(1955)
- 個人と組織
—バーナードの The Function of the
Executive の検討を中心として— 経 済 論 叢 第79巻第1号 昭和32年1月
(1957)
- ビジネス・リーダーシップ論の本質
—バーナードのリーダーシップ論と
の関連における— P. R. 第8巻第1号 昭和32年1月
(1957)
- 経営組織における責任の測定
—E. Jaques の Measurement of
Responsibility, 1956 を中心として— 経営セミナー 第2巻第8号 昭和32年8月
(1957)
- 経営組織と規則—特に規則をめぐる緊
張の問題との関連から— 人 間 と 経 営 64号 昭和33年12月
(1958)
- 経営管理の概念と体系
—一つの組織論的視点よりする試論— 京大経済学部創立40周年記念
論文集「経済学論集」 昭和34年5月
(1959)
- アメリカ経営学の一動向(1) 経 済 論 叢 第91巻第5号 昭和38年5月
(1963)
- アメリカ経営学の一動向(2) 経 済 論 叢 第91巻第6号 昭和38年6月
(1963)
- アメリカ経営学の一動向(3) 経 済 論 叢 第92巻第2号 昭和38年8月
(1963)
- 組織とシステム—A. K. Rice, The
Enterprise and its Environment,
1963 を中心とする— 山本純一監修, システム研究
会編, 「経営システムの研究」
日本事務能率協会 昭和39年12月
(1964)
- 経営形態論 平井泰太郎編「経営学」
青林書院新社 昭和40年1月
(1965)
- 経営管理のプロセス 田杉鏡編「経営管理総論」
有斐閣 昭和41年5月
(1966)
- 経営管理における過程理論の性格(1)
—経営管理の発展と管理過程概念— 経 済 論 叢 第98巻第5号 昭和41年11月
(1966)
- 経営管理における過程理論の性格(2)
—伝統的管理論の理論的基礎— 経 済 論 叢 第99巻第6号 昭和42年6月
(1967)
- 経営管理における過程理論の性格(3)
—新しい経営管理理論の発展と管理過
程概念— 経 済 論 叢 第100巻第5号 昭和42年11月
(1967)
- 経営管理理論再考—基本的諸概念の検討
と対象規定について— 経 済 論 叢 第106巻第
1・2・3号 昭和45年9月
(1970)
- 経営管理におけるシステム概念の変遷
について(1) 経 済 論 叢 第107巻第1号 昭和46年1月
(1971)

- 経営管理におけるシステム概念の変遷
について(2)―ケース・スタディをふ
まえての再論― 経 済 論 叢 第108巻第5号 昭和46年11月
(1971)
- 環境状況と組織化適応(1)
―Contingency Approach との関連
において― 経 済 論 叢 第113巻第4・5号 昭和49年4, 5
月 (1974)
- 環境状況と組織化適応(2)
―Contingency Theory をめぐる若
干の検討― 経 済 論 叢 第113巻第6号 昭和49年6月
(1974)
- 経営管理の機能構造 経 済 論 叢 第116巻第3・4号 昭和50年9,
10月 (1975)
- 経営戦略論に関する若干の考察(1) 経 済 論 叢 第133巻第3号 昭和59年3月
(1984)
- 経営戦略論に関する若干の考察(2) 経 済 論 叢 第133巻第4・5号 昭和59年4, 5
月 (1984)
- 経営戦略論に関する若干の考察(3) 経 済 論 叢 第134巻第3・4号 昭和59年9,
10月 (1984)
- 経営戦略論に関する若干の考察(4) 経 済 論 叢 第136巻第1号 昭和60年7月
(1985)

英 文 論 文

- The Concept and System of Business
Management ―An Essay Discussed
from an Organizational View-point― *The Kyoto University Economic Review* Vol. 29, No. 1 (April, 1959)
- Evolution of System Concept in Man-
agement Theory *The Kyoto University Economic Review* Vol. 45, No. 1-2 (April /
October,
1975)
- A Consideration on Corporate Strategy *The Kyoto University Economic Review* Vol. 55, No. 1 (April, 1985)

書 評

- 占部都美「経営管理論」
白桃書房 昭和43年 国民経済雑誌 第119巻第1号 昭和44年1月
(1969)
- 渡瀬浩「経営組織の基礎理論」
丸善 昭和46年 組 織 科 学 第5巻4号 昭和47年1月
(1972)

辞 典 執筆

- 「レーマンの経済性」 平井泰太郎編「経営学辞典」 昭和27年12月
ダイヤモンド社 (1952)
- 「取締役会」 「科学的管理法」
「品質管理」 「分権管理組織」 青山, 都留, 脇村編「経済学
「最高管理組織」 事典」平凡社 昭和29年6月
(1954)
- 「アメリカの株式会社における最高管
理組織」 藻利重隆編「経営学辞典」 昭和42年11月
東洋経済新報社 (1967)